

## 「長崎平和学習で学んだこと」

よなはら はるき  
與那原 開

私は、北中城村の代表として長崎に三泊四日の平和学習に行きました。一日目は主に移動中心でした。村役場から那覇空港に行き、那覇空港から福岡空港、またそこから私達が泊まる長崎駅前のホテルに電車で移動しました。電車に乗るのは初めてではありませんでしたが、久しぶりだったので少し緊張しました。そのあとは遊覧船で軍艦島に行きました。軍艦島に行くと思ったら、家族から世界遺産が見れていいねと、とてもうらやましがられました。上陸して実際に生で軍艦島を見ると、とても迫力がありました。夜は、稲佐山展望台で世界三大夜景といわれる風景を楽しみました。移動が多かったので、四日間のうちで一番体力を使う一日だったと思います。

二日目は原爆資料館を見学したり、原爆のことについてたくさん学びました。さらに、午後の青少年ピースフォーラムでは、被爆者である小峰さんの話を聞きました。小峰さんは爆心から 0.5km の距離で被爆し、体に火傷のあとが残ってしまい、そのせいで学校に行くといじめられ、つらい思いをしたそうです。三回も手術を行って火傷のあとは取り除くことができたそうですが、心の傷はなかなかいえることはなかったのではと感じました。そのことから私は、戦中だけでなく、戦後に行き残ったことについても大変な苦労があり、これらについても知ることが大事なのだと思いました。

そのあと班に別れてクイズや紙芝居をしたり、屋外の戦争に関する銅像を見たりして、仲間と協力しながら戦争の恐ろしさを学ぶことができました。

次に場所を移動し、夕食をとりました。夕食後に交流会が開催され、私達北中城村と北谷町のメンバーは三択クイズをして、場を盛り上げたりして楽しい交流会になりました。

三日目は平和祈念式典に参加し、長崎に落とされた原爆で犠牲になった方々のご冥福を祈りました。式典の平和宣言の時に、平和の象徴である白い鳩を放鳥していたのが特に印象に残っています。

また、班に別れて戦争が起こる原因やその解決策を付箋紙に書いて、意見を出し合いました。そのあと全体で発表しあいピースフォーラムが終わりました。私は戦争が起こる原因は人間一人一人、個性が違うからだと考えて、それを発表することができました。

四日目は、みんなのためのお土産を買って帰るだけの一日となりましたが、誰もけがや体調不良にならなかったのもとても良かったと思います。

最後に研修全体を振り返ってみると、はじめは不安しかなく同じ沖縄県から

参加した参加者ともあまり話せませんでした。しかし、研修が進んでいく中で、ピースフォーラムでしっかり発表できたことや、交流会で他県の参加者も含めて親しくなれたので、自信がつきさらに信頼関係もできました。そのことから私は戦争はお互いの国が親しくして、信頼関係を結べば戦争など起こらないのではと思いました。だから、私達は今回互いに協力したり意見を言い合ったりしたと気づくことができました。三泊四日間、とても勉強になりました。

## 「核兵器のおそろしさ」

まつもと なつみ  
松本 夏実

私は、長崎平和学習に行つて衝撃をうけたことが4つあります。

まず一つ目は、軍艦島です。軍艦島は、その名のとおり、軍艦のような形をしていて、たくさんマンションなどの建造物が建てられていました。

私は、はじめての軍艦島を見たとき、本当にここに人が住んでいたのかと思うほどボロボロでした。しかし、ここでは多いときにはサッカーのコートに、千人ぐらい人がいるというようなとてもたくさん人がいるところだったそうです。今では、ボロボロですが昔の日本の産業革命を支えたとてもすごいところだというのが分かりました。

ぼくが、次におどろいたところは二日目に行った一の鳥居と二の鳥居です。この2つの鳥居には、秘密がかくされていました。この2つの鳥居のうち、二の鳥居だけが爆風で半分が飛ばされました。この二の鳥居を、もう一方の柱があったところから見てみると、一番上の石が少し横にずれているのが分かりました。これを見たとき、爆風で半分も鳥居がこわれたり、石ずれていたりして原爆の威力は、なんて強いんだろうと思いました。また、原爆の熱線で鳥居にかかっていた文字が、石がとけて消えていたり、階段が熱線で赤くなっているのを見て、こんなものが人の皮膚にあたったと思うと、とても恐ろしいなと思いました。しかし、二の鳥居にはこんなに被害があったのに、一の鳥居はなぜあんまり被害がなかったのか疑問に思いました。それは、爆風をうける角度がちがっていたからです。二の鳥居は、ほぼ正面から爆風をうけましたが、一の鳥居はほぼ真横からうけたので、あまり被害が出ずにすんだようです。

私が、次に衝撃をうけたのは被爆者の方の講話です。その人は、子供のころ被爆して背中に大やけどをおい、足の甲あたりの肉もえぐれてしまったそうです。それで、病院に行ったそうですがもう助からないから来ないでくれと言われたそうです。しかし、お母さんの懸命な看病で一命をとりとめたそうです。

そして、学校に入ったとき足の肉がえぐられているところで神経がきれているらしくて、その足があまり動かなかったそうです。そのことで、いじめにあつて一時は死にたいと思ったそうですが、被爆者の方が何人も自殺するのを見たことがあったので、とても怖くなったそうです。

また、彼女もできたそうですが被爆者だと知られたときに、別れさせられてしまったそうです。被爆者は、こういう苦労があつたと知ったとき被爆者の体も心も傷を負わせる原爆は、なんと恐ろしいものだと思いました。

私は、核兵器は他の爆弾とどこがちがうのか考えてみました。

まず一つ目は、爆弾の数です。他の爆弾は、一種類で何万発あるのに対して核兵器は、一カ国で多くても3000発もっています。しかし、たった3000発で他の爆弾を全部合わせたより強い威力をもっています。

次に、生物に害を与える方法です。他の爆弾は破片がとびちったり爆発だけがをしますが、核兵器は熱線でひふが焼かれたり爆風で建物のしたじきになったり、ガラスがわれてそれが体中につきささったりすることなどです。また、核兵器は放射能でそのあとも被爆者たちを病におかしたりします。

そこで私は、なぜ世界中の核兵器はなくならないのか考えてみました。それは、他の国に負けないように核兵器をつかって攻めてこないようにするためだと思います。しかし、そのせいで核兵器を開発しているところの近くにいる人たちは、放射能の影響で病におかされています。また、日本の船もアメリカ水爆実験で船員たちが亡くなったことがあります。そんな、自分の国の国民にも被害を与えている核兵器を残してはいけないと思います。しかし、最近では北朝鮮が核兵器をなくすと宣言したり、核兵器をなくすために活動しているICANがノーベル平和賞を受賞したりと、非核化がすすみつつあります。

そんなときに、私が今できることは何があるのでしょうか。それを考えてみました。まず一つ目はいろいろなところで自分の考えを発表して、今の世代の皆に核兵器の恐ろしさを知ってもらい、核兵器をなくすという方法です。次に、私生活で何がやれることはないか考えてみました。考えた結果、小さなことをつみかさねが大切だと思いました。たとえば、あまりすぐにおこったりしないとか、だれにでもやさしくすることや、ニュースなどをしっかりみることで。このようなことを、世界中の人がやれば心の温かさがうまれて、核兵器をつくり人を傷付けるようなこともしなくなると思います。

世界から核兵器がなくなれば、多くの人が笑える世界になると思います。

## 「戦争を許さない」

ぎぼ 心の  
宜保 心好

戦争、それは人間が人間でなくなってしまう、残酷で悲惨なものです。ただ、大切な人を失い、人の心を傷つけ、大切なことを見失ってしまう、二度と起こってはならないものだと思えます。では、そんな戦争を二度と起こさないためには、一体どうすればいいのでしょうか。

平成三十年八月七日。私達は長崎平和学習の旅に出ました。早朝から送ってくれた母に手を振り、およそ六時間かけて長崎に到着しました。そして、三泊四日にわたる長崎平和学習がスタートしました。

平和学習には、軍艦島、原爆遺構巡り等、たくさんありましたが、その中で最も私が印象に残っているのは、青少年ピースフォーラムです。青少年ピースフォーラムとは、全国各地から集まった平和大使とともに、平和について学習していくというものです。また、その中でも特に印象深かったものが2つあります。

一つ目は、被爆体験講話です。講話者である小峰秀孝さんは当時四歳八ヶ月で、爆心地より 1.5 km の自宅近くで被爆されました。両手、両足、腹を火傷して、足は三回手術を受けたそうです。また、被爆したことによって足の指が変形して足が曲がらなくなったことが原因で、小学校三年生まで暴力的ないじめ、四年生から精神的いじめを受けていたそうです。私は、この話を聞いて「小峰さんは何も悪いことをしていないのに。自ら望んで足が変形した訳じゃないのに。なんて理不尽なんだ。」と強く思いました。きっと、いじめていた人は足が変形してしまった小峰さんが気に入らなくて、いじめたのかもしれない。ですが、そうだとすると小峰さんの立場になって考えるべきだったのではないのでしょうか。

ただ、だからといって小峰さんが 100 パーセント悪いと言いたい訳でもありません。もしかしたら、長崎の原爆がなければ、いじめられることはなかったのかもしれない。なので、結局は「いじめっ子」ではなく「長崎の原爆」が小峰さんをいじめていたのではないかと私は考えます。

二つ目は、「戦争はなぜ起こるのか?」「その解決策はないか?」この二点について考えて意見を出し合う活動です。私は、戦争がおこる原因は「意見の食い違いによる欲求不満」だと考えました。そして、その解決策としては「他人の意見も尊重し合って話し合う」ということが適切だと私は思いました。とはいえ、私だけではこの二つしか思い浮かばなかったのですが、他の人はピースボランティアを困らせるほど意見を出してすごいなと思いましたし、それ

によって違う視点からも考えることができ、とても参考になりました。

私がこの平和学習を通して学んだことは、“戦争は一切関係のない人できえ命だけではなく、幸せも奪ってしまう”ということです。なぜ、何もしていない人まで巻き込んで戦争は起こってしまうのでしょうか。そう私はこの平和学習を境に、考えるようになりました。沖縄戦の被害と長崎の被爆による被害は違いますが、どちらもたくさんの人が深い悲しみに苦しみ、強い絶望感に襲われた出来事だったと思います。

そんな辛く苦しい出来事は、決して二度と起こってはなりません。そして、忘れてはいけません。

戦争、それは関係のない人の幸せを奪う恐ろしいものです。

私は、そんな戦争が憎くてしょうがありません。体験者の方々からも、何度も何度も聞きました。

「戦争は、もう二度と起こってはならない」と。私は、そんな体験者の思いを今の世界にも未来の子供達にも伝えていきます。また、日常生活では「他人の意見も尊重する」「人とのつながりを大切にする」この二点を気をつけたいと思います。なぜなら、この二つができないと他人とぶつかってしまいケンカ、いわゆる小さな戦争が起こってしまうかもしれないからです。最低限でもこの二つができていれば、小さな戦争もあまり起こらなくなるのではないのでしょうか。そして何より私は、どんなに戦争に協力してほしいと言われても、戦争を許さないことをここに誓います。“戦争を許してはいけない”

## 「平和学習を通して学んだこと」

みやぎ あいか  
宮城 愛花

私は、八月七日から長崎に平和学習に行きました。私は、長崎に行く前は原爆がどのような影響を与えるものなのかよく分かりませんでした。この平和学習を通して、沖縄の地上戦との違いや、核のおそろしさを知る事ができました。

八月八日に、戦争の話を聞きながら実際に歩いてまわるフィールドワークをしました。ガイドの森口さんとまず最初に行ったのは、一本柱という所です。そこでは、爆心地の方角を一本柱から読みとるという事をしました。そのとき、私は読みとってみて原爆というのは、おそろしいものだと感じました。まわっている中で、一番印象に残った所は、浦上天主堂です。当時アジアで一番の大きさの教会だったのですが原爆が落とされた時、爆心地から **0.5km** にあったため、半壊してしまいました。現在は、新しく建て替えられています。このフィールドワークでは、原爆の影響をうけた建物について知る事が出来たのでよかったです。

また、青少年ピースフォーラムでは被爆体験者の小峰秀孝さんの講話を聞きました。小峰さんは、当時四歳八ヶ月でその後被爆者であることを理由にいじめられた話をしてくださいました。特に印象に残ったのは、小学校五年生の時の話です。ずっといじめられていて「死にたい」と思ったけど、お母さんに「いじめっ子を憎まないで、戦争、原爆を憎め。」と言われ、死なないでいられたそうです。また、付き合っていた彼女のお父さんから「被爆者のくせにずうずうしい。」と言われ、自殺しようと大量に薬を飲んだそうです。一命をとりとめ、気づいたときに無口な父や母の泣いていた目を見て、生きようと決心したという話が印象に残りました。この話を聞いて、私はこのような被爆者を二度と出さないように、小峰さんの話を身近な人から伝えていきたいと感じました。

また、八月九日にあった平和祈念式典では長崎市長による平和宣言の「自分のまちの戦争体験を聴くことは大切な事で、体験を共有できなくても、平和への思いは共有できます。」という言葉に、強く共感しました。私達は、実際には被爆や戦争の経験はありません。でも、平和がずっと続いてほしいという願いは同じだと思ったからです。

また、二回目の青少年ピースフォーラムでは戦争の原因とその解決策を自分達で考えました。私は争いの原因は、考えの違いや文化の違い、自己ファーストの考え方によるのではないかと考えました。なぜなら、他国のことを考えず

に自国のことだけを優先して考え対立し、戦争に発展すると考えられたからです。その解決策として、対話する事が何よりも大事だと思います。実際に話し合いをしてみて感じた事です、考え方のズレから争いがおこったりけんかになったりします。そのような争いが戦争へとならないためには、相手の立場にたったり、対話することが大切だと感じました。

私は、この平和学習を通して沖縄戦と原爆の違いを知りました。前者が住民をまきこんだ地上戦なのに対して、後者は一瞬にして無差別に人が殺されるものでした。また、被爆者の方の話聞いて原爆のおそろしさとともに被爆者には戦後の生活でも苦労があることを聞きました。その苦労に関しては、沖縄とも共通すると思います。なので、戦争は二度と起きても起こしてもならないものだと感じました。これから、私はこの平和学習で学んだことを身近な人から話し、この思いを共有していきたいと思っています。